

MICE施設（熊本城ホール）はきっぱり中止し 被災者の生活再建への支援強化を！

9月21日に行われた予算決算委員会では、なすまどか議員が、復興計画に位置付けられているMICE施設について、経済波及効果や財政面から質疑し、きっぱり中止をするよう求めました。

経済波及効果の5、6割は国内移動費

「大西市長は、MICE施設の経済波及効果が170億円あり、復興を後押しする効果がある」とし、震災後の復興計画にMICE施設を位置づけています。

右の表は、経済波及効果を試算する際に、国が示した測定モデルです。国際会議や大会などで、どの分野にいくらの消費があるのかが示されています。

質疑では、波及効果の5割から6割が国内移動費となっていることや、沖縄

観光庁によるMICE経済波及効果測定モデル

【国際会議や大会の消費原単位】	日本人		外国人
	日帰り	宿泊	
1人当たり国際線運賃(円/人)	0	0	10887
1人当たり国内移動費(円/人)	4232	31208	9459
1人当たり都市内移動費(円/人)	1040	2349	3707
1人・日当たり宿泊費(円/人・日)	0	7743	8805
1人・日当たり飲食費(円/人・日)	3169	2646	2747
1人当たり観光・娯楽費(円/人)	231	2459	970
1人当たり土産・買物費(円/人)	319	4186	21052
計	8991	50591	57627

県では、国内移動費を波及効果から除いていることなどを指摘。市内業者への消費につながっているのか質しました。

市からは「県内での消費が示されている」との答弁がありましたが、積算の詳しい中身までは答弁がありませんでした。

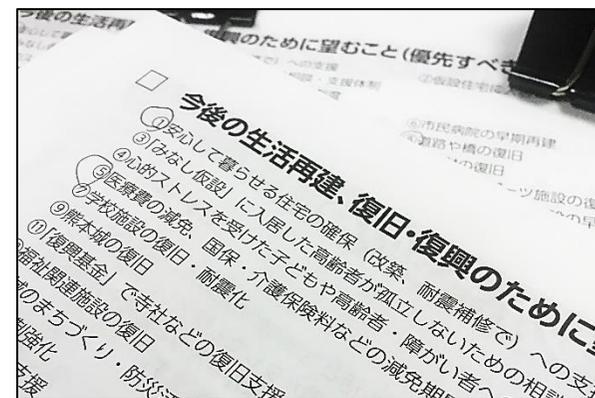
熊本地震についての市民アンケート

「安心して暮らせる住宅の確保」「一部損壊への支援」が市民の願い

市議団が行っている熊本地震についての市民アンケートの回答が続々と寄せられています。

質問項目に「今後の生活再建、復興復旧のために望むことは何ですか？」との問いがありますが、多くの市民が「安心して暮らせる住宅の確保」「一部損壊への支援」と回答しています。

「再開発・MICE建設」と回答した方は、576名中



わずか3名でした。

市民の声をしっかりと受け止め、MICE整備はきっぱり中止し、暮らしと生業の再建に力を尽くすべきです。

【控室から】

発掘！地元のアーティスト

やまへひろし



11月に地元、武蔵校区で開かれる『むさし秋フェスタ』の準備を執行委員の一人として進めています。これは例年、武蔵小学校のグラウンド、体育館をお借りして、子どもたちを中心とした、スポーツ、音楽、木工細工や昔遊びなど、地域住民と子どもたちの交流を目的としたイベントです。催しのひとつ、グラウンドゴルフでは、お年寄りや子供たちの混合チームで対戦するのですが、普段あまり接することのない子どもたちとの交流に、お年寄りたちにも大変喜ばれています。

しかし、今年は震災で体育館が使えず、プラスバンド演奏など、大掛かりな音楽・文化イベントができなくなりました。そこで、小編成でなにかやってくれる人がいないものかと皆で思案していたら、なんとバイオリンのソロ演奏や影絵パフォーマンスの高校生、オカリナ演奏グループなど、地元から次々にエントリーがありました。地域でこんな多様な活動をされている方々がおられたということは、思いがけないことでした。皆さんのパフォーマンスが、『秋フェスタ』に素敵な彩りをそえてくれることでしょう。

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

上野みえこ なすまどか 山部ひろし

熊本市中央区手取本町1-1 3階

NO. 1016
2016年10月2日
電話 328-2656
FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp
HP：http://www.jcp-kumamoto.com/

城南工業団地・藤山仮設住宅、塚原仮設住宅 いっせい聞き取り訪問

仮設に入れたけれど、2年後が心配…

9月18日、日本共産党熊本地区委員会は、城南町の工業団地・藤山仮設住宅、塚原仮設住宅の聞き取り調査を行い、市議団から、やまべひろし議員が参加しました。

あいにくの雨でしたが、約50名が参加、75世帯の聞き取りができました。

寄せられた声では、

- ・押入れが少なく、冬物衣類やふとんの置き場がない。
- ・学校が遠くなったので、子どもを車で送迎している。
- ・部屋の間仕切りをカーテンではなく、ドアにしてほしい。
- ・雨が降ると敷地全体が水浸しになる。水はけが悪い。
- ・熊本市に合併してよかったことが



ない。

・避難所生活で体調をくずした。今も通院中。などの声が寄せられました。

また、仮設住宅の入居期限である、2年後の生活再建、住まいの確保を心配する声が多かったのも特徴的でした。

今後も引き続き、聞き取り訪問を続け、寄せられた要望は市や県にしっかりと届け改善をはかっていきます。

一人暮らしの高齢者…見守りの整備を早急に！

聞き取り中、ある一人暮らしのお宅で「具合が悪くて2日間食事がとれていない。救急車を呼んでほしい」と訴えがあり、救急搬送する事

態がおこりました。今後、仮設住宅では「孤立」「孤独死」の問題が心配されます。高齢世帯への見守り制度の整備が急がれます。

■熊本地震からの復旧・復興に関する調査特別委員会

9月26日、「第6回 熊本地震からの復旧・復興に関する特別調査委員会」が開かれ、日本共産党熊本市議団からは、やまべひろし委員が質疑をおこないました。

仮設世帯の状況把握を早急に！

やまべ委員は、城南工業団地で救急搬送された一人住まいの高齢者の例をあげ、仮設世帯への状況把握、入居者への見守り支援、また、外部と連絡手段を持たない独居世帯への対応についてたずねました。

市は、仮設世帯の状況把握については、「いまだ全世帯を訪問できていない。10月末までには全世帯訪問を完了したい」と答弁しました。

見守り支援については「9月から市社会福祉協議会に管理運営を委託し、集会所に相談員を常駐させること」また、「連絡手段を持たない世帯については、保険福祉部門と連携し対応する」と答弁しました。

やまべ委員は、高齢の一人世帯については、ボタンひとつで消防署につながる緊急通報装置の設置を求めました。

恒久的な住まいの確保に支援を！

また、仮設入居者から入居期限後の生活について不安の声が多かったことから、災害公営住宅の提供についてたずねました。

市は、「提供が必要な方の需要を調査中」として、「早期の整備に取り組む」と答弁しました。

東日本大震災でも公営住宅の

整備の遅れが、被災者に何年もの仮設生活を強いることになっています。早期の整備が必要です。

